

川越時間旅行 7

市立博物館 222-5399

黒馬図大絵馬

川越氷川神社には、躍動感あふれる黒馬を画面いっぱい描いた「黒馬図大絵馬」があります。残念ながら、馬の黒色は色あせてほとんど残っていませんが、金地との対比が鮮やかだったことが想像できます。向かって左隅に記された墨書銘から、この絵馬は正徳5年(1715)9月15日に奉納されたことがわかります。宝永元年(1704)から明和4年(1767)までの63年間は、秋元家が川越藩主を務めました。この絵馬は、その5代目である喬房(1683~1738)が奉納したと伝えられています。確証する資料はありませんが、藩主奉納にふさわしい出来栄です。

現在川越には、秋元家ゆかりの資料はほとんど残っていません。そのため、この大絵馬は秋元家に関する資料として大変貴重なものです。

同館では、特別展を開催し、会期中、大絵馬を展示します。この機会に、大絵馬を近くで鑑賞してみたいかがですか。



黒馬図大絵馬 川越氷川神社蔵
大きさは縦92cm、横134cm。普段は同神社拝殿内に掲げられています。

市制施行90周年記念特別展

譜代大名秋元家と川越藩

川越織物の礎を築いた大名秋元家

日程…10月20日(土)~11月25日(日)

経費…入館料



いちじく

アラビア半島原産のいちじくは、旧約聖書にも登場

する歴史ある果物です。アダムとイブが身に着けていたのは、いちじくの葉とされています。

「無花果」と名付けられたのは、実の中に花が咲き、そのまま大きくなるので花を外側から見る



中にあるたくさんのつぶつぶ。一つひとつが、いちじくの花。

ことができないため。整腸作用や美肌効果があるといわれる食物繊維のペクチンが豊富で、生食のほかワイン煮や

ジャムなどにして食べられることが多いようです。

市内では農家の庭先などで栽培され、一部は直売所に並びます。赤い果実の榊井ドーフィンと白い果実で甘味が強いホワイトゼノアなどを栽培する山田直正さん(鴨田)は、栽培を始めて4年目。植えて1年目から収穫でき、1本の木からは400個ほどの実がなるそうです。木が高くなるように調整できることから、高齢者にも栽培しやすい作物です。秋の味覚のひとつ、いちじくを味わってみてはいかがでしょうか。



編集後記

どんぐり

15歳までを対象にしたU-15ボクシング全国大会が9月2日、後楽園ホールで行われ、榊原雅也くん(城南中学校1年)が37.5kg級で優勝しました。この階級、2年前には兄の達也くん(高校1年)が優勝。兄弟でチャンピオンの座を獲得しました。

チャンピオンになれたのは、家族やジムの仲間が支えてくれたおかげです、と感謝の気持ちを忘れない雅也くん。特に試合でアドバイスをしてくれたり、練習相手になってくれる兄は良い手本であり目標だそうです。

将来、兄弟で世界チャンピオンになることを目指し、練習に打ち込みます。



トレーニングする雅也くん(右)と達也くん(左)

広報川越1280

発行日/平成24年10月10日(毎月10日・25日発行)

発行/川越市 〒350-8601埼玉県川越市元町1丁目3-1 <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>

編集/広報室 ☎049-224-8811(市役所代表) ☎049-225-2171

印刷/徇新広社